

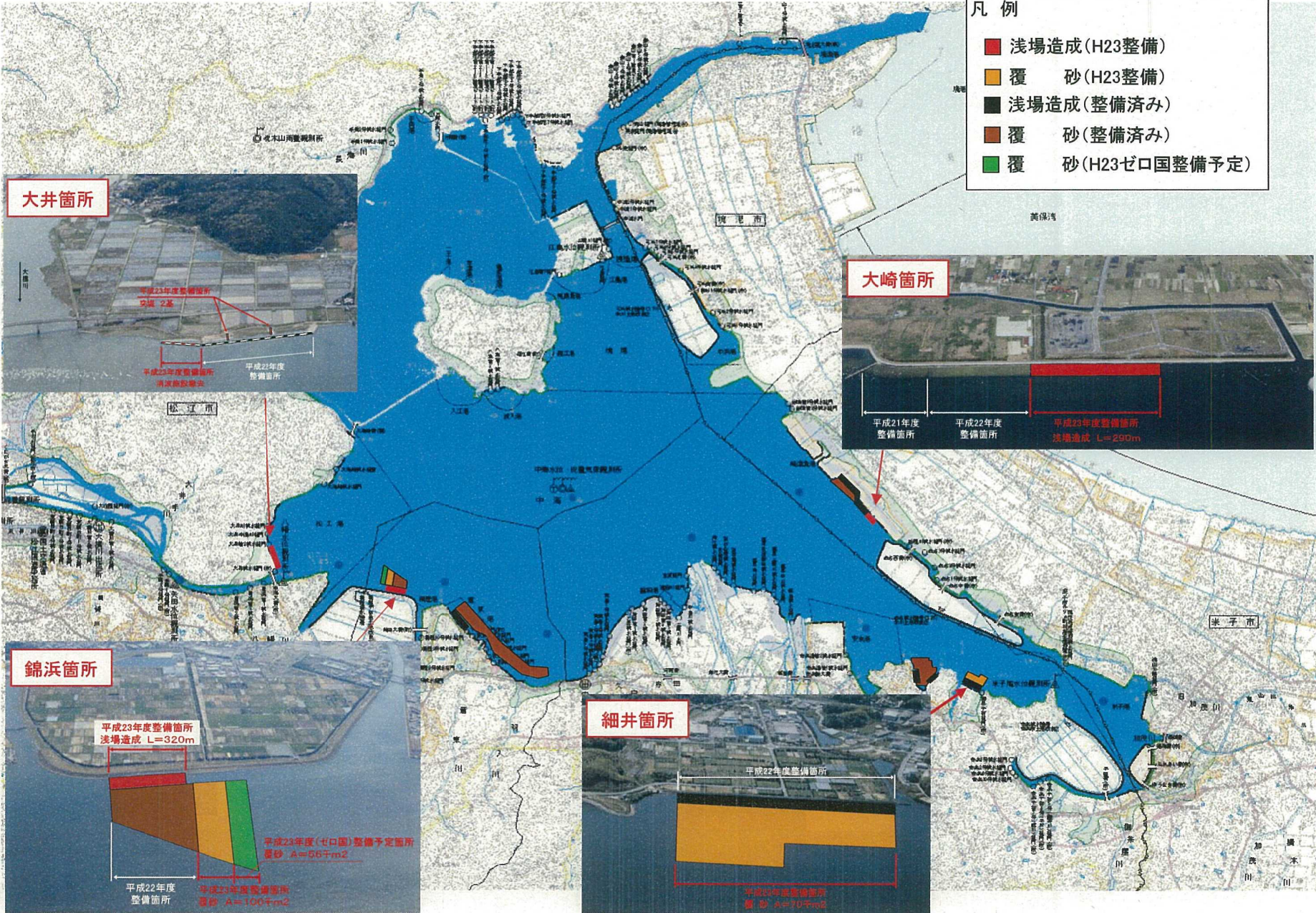
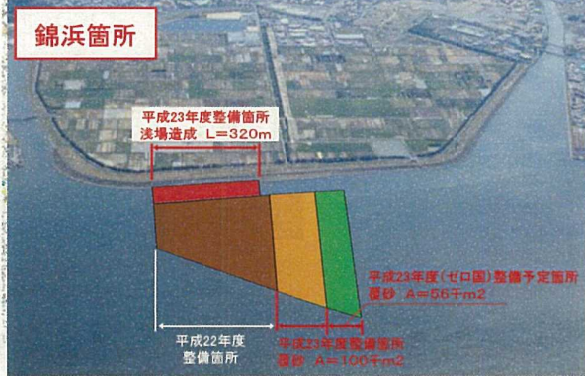
# 第4回 中海の水質及び流動会議

## 資料

平成24年3月14日

# 平成23年度 浅場造成・覆砂整備箇所

- 凡例
- 浅場造成(H23整備)
  - 覆砂(H23整備)
  - 浅場造成(整備済み)
  - 覆砂(整備済み)
  - 覆砂(H23ゼロ国整備予定)



(概要)

- ・ 海藻の回収は、2/29 現在、予定の回収量を上回る実績で進捗しています。
- ・ 課題としては、①回収は発生状況の把握ができないこと、②乾燥は天候の影響を受けやすく、安定した乾燥ができないこと、③製品保管は雨等の水分を再吸収しないこと、④販売は安定的な製造ができないため単価設定等ができないこと等です。
- ・ 海藻事業は、3年間のモデル構築として取り組んでおり、次年度はこれらの課題を解決させるための工夫等に期待しているところです。

○海藻回収

- ・ 海藻はおもに「オゴノリ」を回収していますが、夏場は「シオクサ」が多く発生します。シオクサは水切れが悪く、回収作業は労多く、乾燥も非常に多くの時間を要しています。
- ・ 22 年度は大雪で水温が 3 度とさがり、冬季は海藻が枯れて、なくなりましたが、今年は、冬季にも海藻があり、回収は計画どおり進捗する予定です。
- ・ 海藻の繁茂は、年によって大きく異なる傾向にあります。また、海藻によっては、消長が短いものもあり、発生状況の把握が課題とされています。
- ・ 海藻農法普及協議会（未来守りネットワーク）は、水中ポンプ等の機械を利用して効率的に回収しています。また、自然再生センターは、地域の漁師ネットワークを活用して、多くの人手による人力回収を実施しています。

○乾燥

- ・ 海藻を乾燥させ、肥料として農家にサンプル提供していますが、乾燥状態が良くない場合、畑に悪影響が生じる懸念もあり、乾燥を良好にするよう配慮しています。
- ・ 乾燥は、天日干しに依存する割合が多く、天候の都合で、乾燥工程に時間を要す時期（雨、雪）が多くあります。
- ・ そのため、回収した海藻が乾燥行程に進められず、腐らせてしまうことを回避させるため、回収を控えるなど、回収が計画どおりに行かない時期もあります。
- ・ 一方、海藻の利活用先として、引き受け農家は少しずつ、増加しています。

○製品保管

- ・ 乾燥させた海藻の保管に際して、台風時に雨が吹き込み、カビが発生するなど、管理にも苦慮しています。

○原価計算・販売

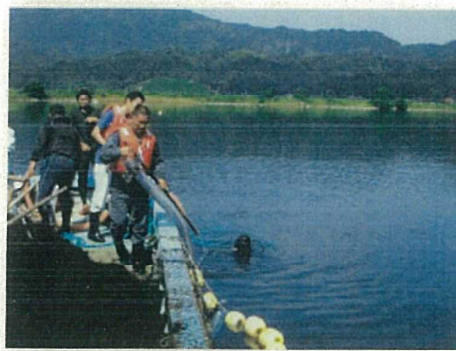
- ・ 海藻からの肥料製造は試行錯誤中であり、原価計算にも苦労しています。製品単価が定まらない状況です。
- ・ 単価が定まらない、安定的な製品製造ができないなど、販売ルートも確立していない状況です。
- ・ 製品のサンプル提供、栽培野菜の販売を通じて、ブランド化に努力しています。
- ・ 自然再生センターは主に地域農家へ、海藻農法普及協議会は、ホームセンター等を含む県外販路等を模索中です。

○負荷削減効果

- ・ 最終的な海藻回収量により、栄養塩（窒素、リン、カリウム）の搬出量を算定予定です。

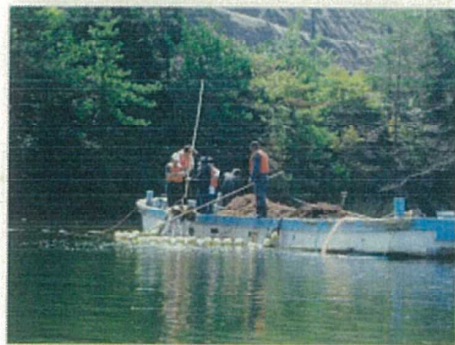
◎受託者の概要

委託者	構成員	計画内容	計画の特色
海藻農法普及協議会 会長 金澤 啓造 (鳥取県境港市) H23. 4. 1 設立  電話 0859-47-4330  (事務局は NPO 未来守りネットワーク)	法人等 6 団体  個人 38 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海藻回収 175 トン</li> <li>・計画額 6,000 千円</li> <li>・回収単価 34,285 円/トン</li> <li>・回収方法は、中海漁協、米子市漁協、県漁連境港支所と連携して実施する</li> <li>・水中ポンプ、編み目の大きい藻引き網、鋤簾を使用し、小型船 1 隻、運搬用大型船・中型船各 1 隻により、30 日間回収する</li> <li>・利活用は、肥料と食品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回収は、大型船とポンプ等により、短期間の実施</li> <li>・海藻処理施設までの運搬は、船による</li> <li>・海藻の計量は、あらかじめ定重量のボックスを準備し、計量作業を省略している</li> <li>・肥料の販売価額 2,800 ~ 3,000 円/10 キロ</li> </ul>



・ダイバーが潜水し、水中ポンプでホトトギス貝に絡んだ「オゴノリ」を水中ポンプへ投入

・海藻回収の船近くに網を設置し、その網の中へオゴノリを排出



・網内のオゴノリを鋤簾で船へ引き上げ回収  
 ・海藻回収の全体風景



・大雨で塩分が低下し、死滅した天然サルボウ

◎受託者の概要

委託者	構成員	計画内容	計画の特色
NPO 自然再生センター 理事長 徳岡 隆夫 (島根県松江市) H19. 4. 19 設立  電話 0852-21-4882	個人129名  賛助会員 22 団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海藻回収 168 トン</li> <li>・計画額 6,000 千円</li> <li>・回収単価 35,714 円/トン</li> <li>・回収方法は、中海漁業、渡漁協の漁師と契約して実施する</li> <li>・1隻1~2名体制で、40 隻が平均6回の作業で、計 240 回、竿等の採藻用具より回収する。</li> <li>・利活用は、肥料と食品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回収は、小型船の人力により、相当数の人員で長期間の実施</li> <li>・海藻処理施設までの運搬は、港陸揚げ後、陸送による</li> <li>・肥料の販売価額(試作) 1,400 円/10 キロ</li> <li>・食料品は海藻原料 10 キロを投入し、製品 120 キロを製造予定 ⇒販売価額 200 円/個 (200g×600 個)</li> </ul>



・漁師は 70 代と言われたが、猛スピードで操船、荷上げ作業をこなされる



・作業所の方が地産振興敷地内で乾燥作業  
・藻の中にはカニや魚が混入

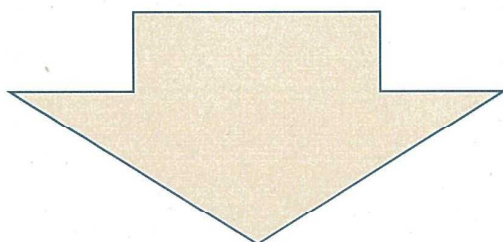
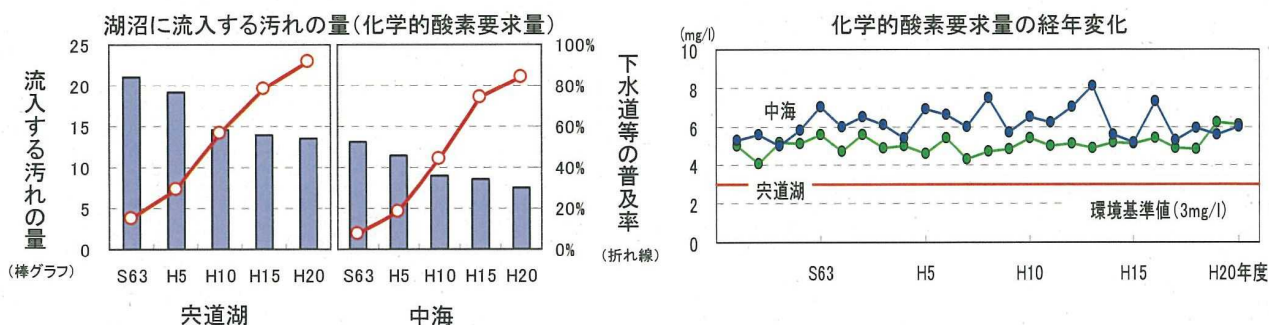


# 中海監視体制の強化について(案)

## 【1】事業の背景(現状と課題等)

### ○現状

- これまでの下水道整備など施策の推進により、中海・宍道湖への流入負荷は着実に減少
- 引き続き流入負荷削減に努めていくこととしているが、湖内については流入負荷だけでなく、
  - 汽水湖特有の塩分躍層による季節的な貧酸素水塊の発生
  - 貧酸素による湖底のヘドロからの窒素・りんなどの溶出
  - それらに伴うプランクトン異常発生(アオコ、赤潮等)によるCODの上昇 など
 複雑な要因が絡み合い、湖内の水質は横ばいの状況



## 【2】H24年度新規事業 (島根県・鳥取県・国交省連携事業)

### (1) 米子湾流動等調査(H24年度)

- 米子湾の流況について把握
  - ① 流動観測
  - ② 流動解析
  - ③-1 (米子湾水質調査)

### (2) 中海底質調査事業(H24~25年度)

- 湖底環境を把握するため、底質を調査
  - ③-2 中海の計20地点程度で調査

※今後、専門家の意見を踏まえて調査内容を調整していく

鳥取大学大学院 工学研究科 矢島 啓 准教授  
 名城大学大学院総合学術研究科 中田喜三郎 特任教授  
 独立行政法人港湾空港研究所 中村由行 研究主監

意見聴取を行う専門家(予定)

H24  
以降

具体的な水質改善策を関係機関と調整し、可能なものから速やかに実施



# 米子湾流動等調査について

平成24年3月14日  
 国土交通省・鳥取県・島根県  
 (中海の水質及び流動会議 資料)

## 米子湾の水質と流動についての検討

米子湾:水質は改善傾向にあるものの、他地点と比較して汚濁の度合いが大きい

監視体制強化の要望

流動、流入河川水質、底質  
 影響などの「見える化」

H24

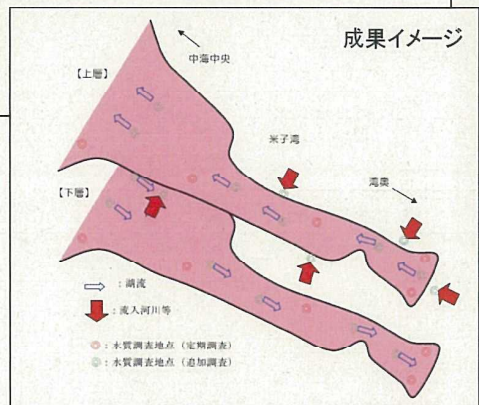
① 米子湾の流動観測調査を実施(航走観測、短期連続観測)

② 調査結果を基に流動解析を行い、数値シミュレーションモデルの精度向上と妥当性の検証を行う。また米子湾を中心に流動等の知見について整理

③ 流入河川の水質や底質を含めた総合的な調査を実施 ⇒ 関係機関の協力を得ながら実施

米子湾の汚濁傾向をわかりやすく整理  
 必要な取り組みを考察

可能な取り組みから実施



成果イメージ

H26

第6期湖沼水質保全計画

# ① 米子湾流動等調査(現地観測)【新規】

## 【観測目的】

- ・現在の米子湾の流況を観測し、既存観測データと関連づけて湖流を再現し、水質改善策を考察する。

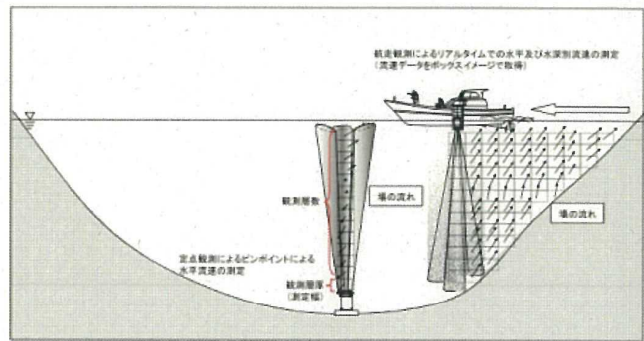
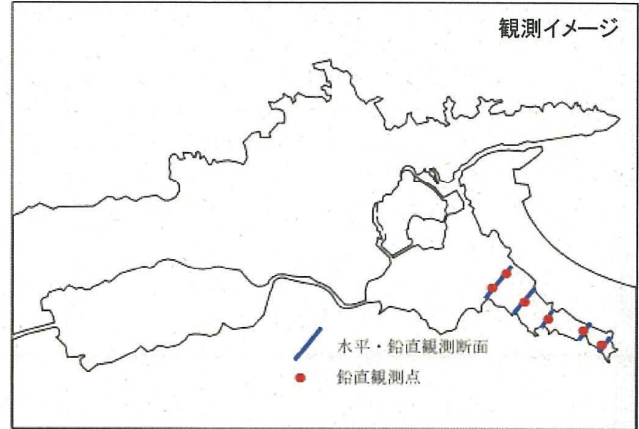
## 平成24年度調査(案)

## 【現地観測】

A D C Pを設置した調査船による流向・流速、水温、塩分の航走観測及び強風時や出水時の湖流の変化を把握するため、鉛直的な連続観測を行う。

- ・航走観測：地形特性等を勘案し、飯梨川河口付近までの観測断面を設定し、代表的条件下での観測を行う。
- ・連続観測：各断面1～2点程度について鉛直的な連続観測を行う。

※シミュレーションとの整合をとりながら調査計画を立案する。  
 専門家の意見を聞きながら調査を進める。



# ② 流動解析(シミュレーション)【新規】

## 平成24年度事業

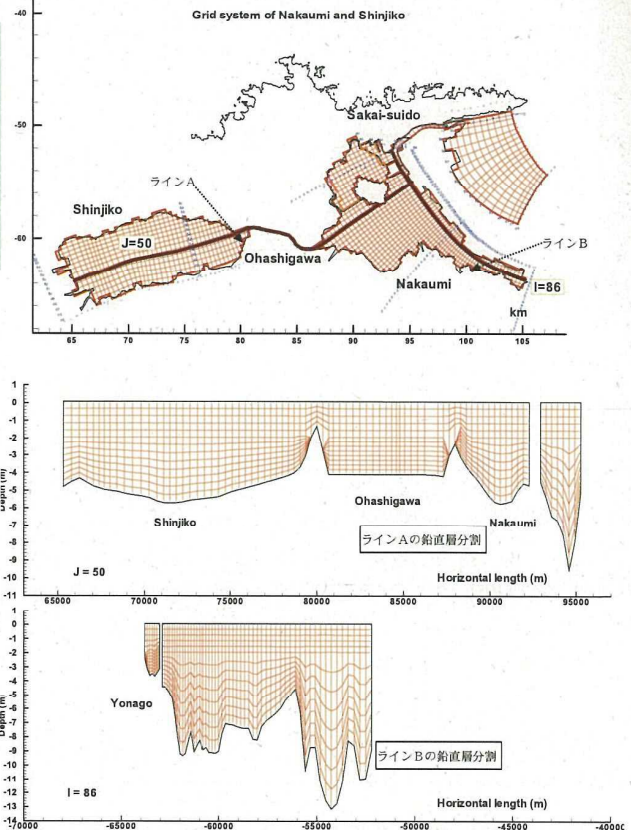
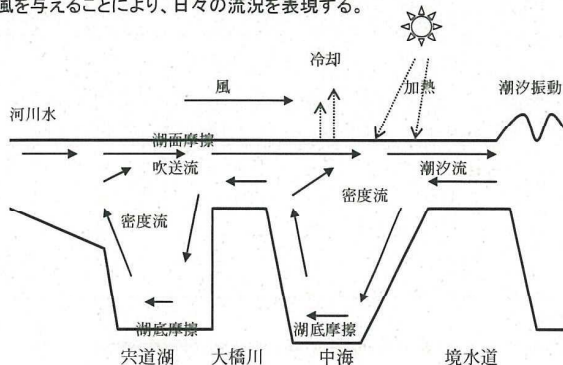
## 【流動解析】

上記の結果と既存観測データを関連づけ、第5期中海水質保全計画策定時の流動シミュレーションモデルの再現性の確認及び精度向上

- ・代表的な流況による流れを上層・下層別に可視化
- ・測定ブロック毎の流量収支等の把握
- ・流動に応じた水質浄化対策の考察

湖水の流れを求める流動モデルは、水質モデルにおいて物質の移流・拡散量を決定する重要な役割を担っており、宍道湖・中海において上層を淡水が流下するとともに、境水道を通じて海水が流入するという汽水湖特有の水理構造を考慮する。

具体的には、水平方向を100m～1kmの不等間隔格子、鉛直層区分は塩分成層を比較的良好に表現できるσ座標モデルを用いて13層に分割し、河川からの日々の淡水流入と美保湾の実測潮位変動を与えたとともに、これらの水温・塩分の値の他、湖面の熱交換による水温変化による密度変化を求め、さらには湖面に実測の風を与えることにより、日々の流況を表現する。





### ③-1 米子湾水質調査【新規】

#### 【観測目的】

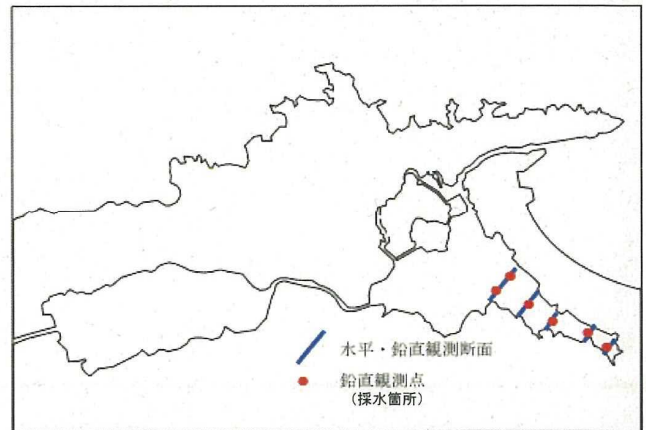
- ・米子湾流動調査と同時に流入河川、湖内水質及びその他の流入負荷源の水質を調査することで、米子湾の流動調査に合わせ水質の状況を把握する。

#### 平成24年度調査(案)

#### 【観測概要】

- ・調査地点は、米子湾流動等調査 鉛直観測点、米子湾内の水質に影響を及ぼすと考えられる公共用水域水質調査地点・流入河川等について行う。
- ・採水は、米子湾流動調査におけるA D C P観測日及び公共用水域の水質調査日を出来る限り合わせ実施する。
- ・流入河川等については、量の把握のために流量調査を合わせて行う。
- ・水質調査項目は、調査目的、各地点の公共用水域水質調査内容を勘案し、今後調整する。

※専門家の知見も参考にしながら調査を進める。



### ③-2 底質調査【新規】

#### 【観測目的】

- ・湖沼水質への影響が大きいと思われる底質について、栄養塩の含有量や溶出量について調査し、底質の状況や湖水への影響を把握する。  
(宍道湖、中海全域で実施)

#### 平成24～25年度調査

#### 【観測概要】

- ・概要は別添資料のとおり
- ・①の調査と時期を合わせて実施し、米子湾部分の水質解析に活用する。

# 平成 24 年度 中海底質調査事業(案)

平成 24 年 3 月 14 日  
島根県環境政策課

## 1. 目的

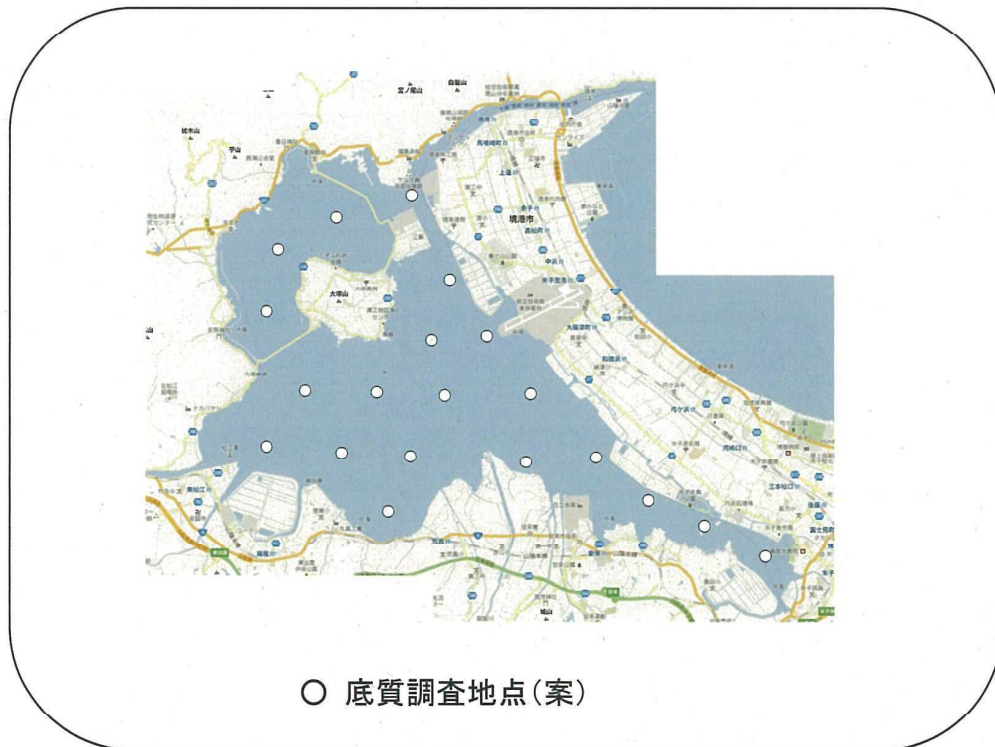
これまでの下水道整備等の施策の推進により、中海への流入負荷は着実に減少している。しかし、湖内の水質は横ばいの状況であり、汽水湖特有の塩分躍層による季節的な貧酸素水塊の発生や貧酸素による湖底のヘドロからの窒素・りんなどの溶出、それらに伴うプランクトン異常発生により生じる赤潮など複雑な要因が絡み合っている。

これらの要因について現状等を把握することは、具体的な水質改善策を検討するうえで非常に重要である。

については、湖沼水質への影響が大きいと考えられる底質について、栄養塩の含有量や溶出量等について調査し、底質環境・影響を把握する。

## 2. 調査内容

- 底泥の堆積状況とその性状を 20 地点程度で調査し、底質環境の現況を面的に把握する。
- 底質からの窒素やりんなど栄養塩の溶出量を調査し、湖内の物質循環を把握する。
- 硫化水素の発生状況等を調査し、生物の生息場と底質環境との関わりを把握する。
- 過去データとの比較により、30 年間の変化及び施策の評価などを検討する。



【鳥取・島根連携事業】

平成24年度 中海に関する水質浄化事業等の概要

(単位：千円)

区 分	事 業 内 容	予算案		
		鳥取県	島根県	合 計
水質浄化 ・ 賢明利用	(共通) 海藻刈りによる栄養塩循環システムのモデル構築	6,000	6,000	12,000
	(島根県) 海藻の利活用方法の調査・研究 (健康食品等への活用、肥料成分分析、堆肥化技術、海藻の生育・量の推定調査)	—	4,000	4,000
調査・研究	(共通) 米子湾流動等調査【新規】	5,000	5,000	10,000
	(共通) 中海底質調査【新規】	5,000	5,000	10,000
	(鳥取県) アサリが住める中海の浅場環境の保全に関する研究【新規】	1,943	—	1,943
	(鳥取県) 湖沼汚濁機構解明に資する新モニタリング手法の開発(リモートセンシング)	1,241	—	1,241
合 計	—	19,184	20,000	39,184

【参考】

ラムサール条約普及・啓発事業

主査	事業内容	事業費	内訳	
			鳥取県	島根県
鳥取	中海・宍道湖情報館	450	225	225
鳥取	リレーシンポジウム	3,000	1,500	1,500
島根	こどもラムサール交流	2,400	1,200	1,200
鳥取	中海一斉清掃(開始式)	300	300	—

## (新規) アサリが住める中海の浅場環境の保全に関する研究

平成24年3月14日  
鳥取県衛生環境研究所

### 1 概要

近年、中海では浅場を中心に、大量に繁茂した海藻の湖底への堆積・腐敗やホトトギスガイの被覆によって湖底が貧酸素化する等、生物が作り出す環境悪化が、アサリ等の有用種が死滅する要因の一つとなっている。この研究では有用種として注目されているアサリを対象にして、海藻の繁茂等、生物が作り出す環境がその生育に与える影響を評価し、中海の浅場環境の保全や再生のための施策に資する。

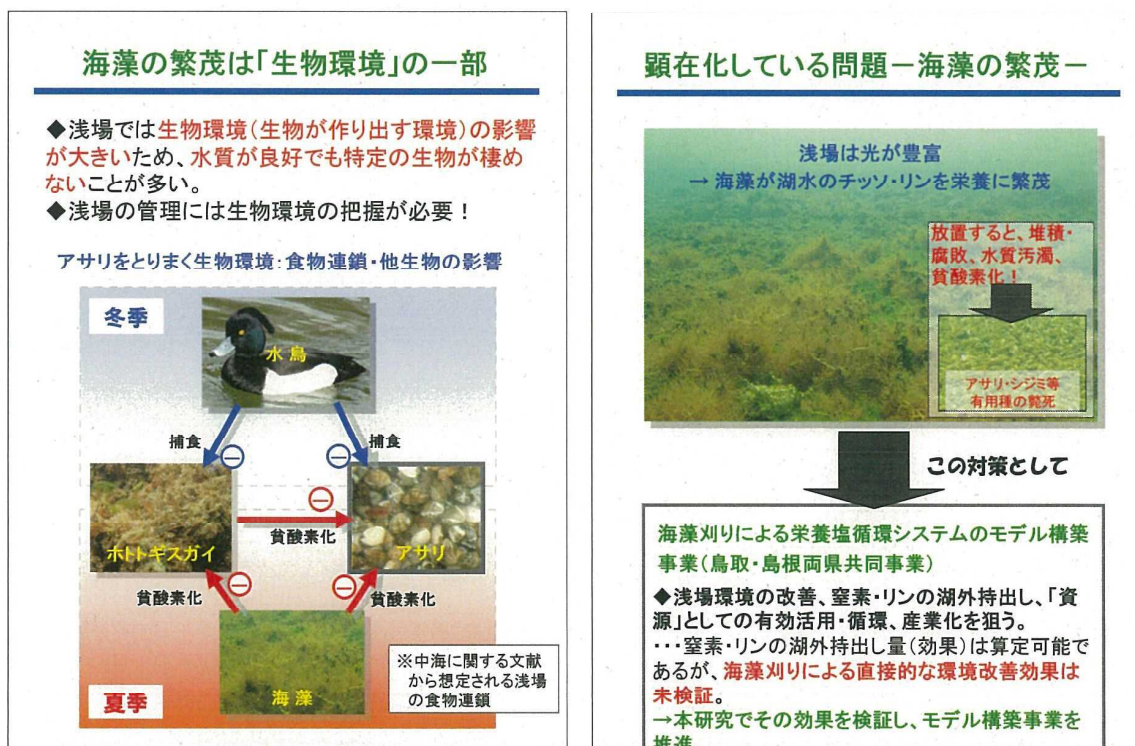
### 2 事業内容、予算額等

年度	内容	事業費 (千円)
H24	○既存情報の収集・分析 ○現場実験による海藻とホトトギスガイによる影響評価 ○生化学分析による貧酸素化のアサリへの影響評価	1,943
H25	○現場実験による鳥類の捕食による影響評価 ○結果とりまとめ	2,000 (見込)

(独) 国立環境研究所、(独) 水産総合研究センター、鳥取県水産試験場、島根県水産技術センターとの共同研究。

### 3 現状・背景

- 近年の中海の浅場では生物が作り出す環境悪化が問題化しており、大量に繁茂した海藻の堆積・腐敗に伴う湖底の貧酸素化が指摘されている。
- アサリは商品価値が高く中海でも有用種として注目されている反面、中海のアサリは商品サイズに至らない稚貝がほとんどで、その背景に生物が作り出す環境悪化に起因する死亡があることが指摘されているものの、メカニズムは未解明で対策が進んでいない。
- 繁茂した海藻への対策として、「海藻刈りによる栄養塩循環システムのモデル構築」が鳥取・島根両県共同で事業化されている。海藻刈りの効果として、現段階では窒素・リンの湖外への持ち出しによる水質浄化効果を算定可能であるが、直接的な浅場環境の改善効果は未検証である。



関係市等の水質改善施策(平成24年度実施予定)

市名	事業名等	実施主体	事業内容等
米子市	公共下水道事業	米子市	整備面積17.2ha
	合併処理浄化槽設置整備事業		合併処理浄化槽の普及促進10基
	側溝管渠浚渫清掃委託業務		側溝管渠浚渫清掃 延長696m
	崎津承水路枝線浚渫作業		浚渫作業=80m <sup>3</sup>
	準用河川北・南崎津川清掃除草作業		清掃A=36,600m <sup>2</sup> 、除草作業A=31,360m <sup>2</sup>
	準用河川四反田川浚渫作業		除草作業A=2,603m <sup>2</sup>
	市内一斉清掃事業		浚渫作業=160m <sup>3</sup>
	街角清掃の奨励		春期(4月)、秋期(10月)年2回の市内一斉清掃
	中海浄化普及啓発事業		公園、街路等公共の場所を清掃
	湖沼・流入河川の水質調査		生活排水対策講習会の実施、中海写真展の開催、エコ・クッキング教室の開催、生活排水対策推進指導員の設置
環境学習推進事業	(財)中海水鳥国際交流基金財団	米子工業高等専門学校(委託)、加茂川の水質測定、崎津承水路の水質調査	
境港市	河川等水質調査	境港市	市内10ヶ所の水路等の水質調査
	廃食用油の回収と再利用		廃食用油を回収し、BDFを製造。ごみ収集車等の燃料として利用。
	アサリ汁の提供		水質浄化能力の高いアサリの地産地消を広めるため、各種イベントでアサリ汁を提供。
	市内一斉清掃		6月に中海も含めた一斉清掃を実施。
	市内側溝清掃		毎年4～6月に自治会、事業所等による側溝清掃を実施。自治会等での清掃が困難な箇所は市が清掃を実施。
	公共下水道整備事業		下水道普及率51.6%、処理可能人口18,511人(平成23年3月末現在)
	合併処理浄化槽設置整備事業		新築を除く合併処理浄化槽設置者への補助。(平成24年度20基予定)
アマモ場再生事業への支	地域住民	アマモ場を造成し、多様生物の創出、海の浄化機能の向上等を図る。(関連団体:NPO法人未来守りネットワーク)	
松江市	河川水質調査	松江市	市内27河川・43地点(年6回)及び1河川1地点(年1回)
	下排水溝清掃		下排水溝清掃後の泥土、運搬及び処分
	河川浄化対策事業		市内河川の堤防除草・藻刈り・堤防植栽剪定、堆積土の除去
	林業振興対策事業		荒廃森林整備の拡大促進
	路面清掃事業		市道の路面清掃
	クリーン松江		年2回(6月、10月)の各地区の清掃活動(草刈り、溝掃除等)
安来市	クリーンアップ安来デー	安来市	河川、水辺、道路、緑地、公園等の清掃活動。
	河川水質調査		12河川(17地点)
	水環境保全事業補助事業		水環境の保全に資する活動を推進する市内の団体への支援事業
	地域内の下水路清掃		清掃後の運搬処理(清掃は地域住民)
	水質浄化対策清掃		河川等の清掃
	公共下水道事業		整備面積 10.84 ha
	浄化槽設置整備事業		合併処理浄化槽の普及促進(浄化槽設置整備事業14基、浄化槽市町村整備推進事業30基)
河川浄化事業	市管理河川 6100m <sup>2</sup>		

※松江市は旧東出雲町分を含む

(その他)

中海市長会	環境学習推進事業	中海子ども探検クルーズ
沿岸市	中海突道湖一斉清掃	ラムサール条約湿地登録を契機に毎年6月に実施

## 湖沼の水質保全施策について

環境省

### 1 指定湖沼の現状

- ①湖沼水質保全特別措置法(以下、湖沼法)に基づく指定湖沼は、現在11湖沼が指定されている。
- ②平成22年3月には、中海に係る湖沼水質保全計画が策定された。
- ③また、平成24年3月においては、霞ヶ浦、印旛沼、手賀沼、琵琶湖、児島湖の第6期の湖沼水質保全計画を策定予定である。

### 2 平成24年度の湖沼水質保全関係事業について

改正湖沼法の円滑な施行を始め湖沼水質保全関係施策の着実な推進を図るため、次の事業の実施を予定している。

#### 【湖沼環境対策等推進費】

(湖沼水質保全施策枠組み再構築事業)

- ①湖沼水質保全施策検討業務

(湖沼流域水循環健全化事業)

- ②湖沼自然浄化健全化事業

#### 【水質環境基準検討費】

(新規項目基準化検討業務)

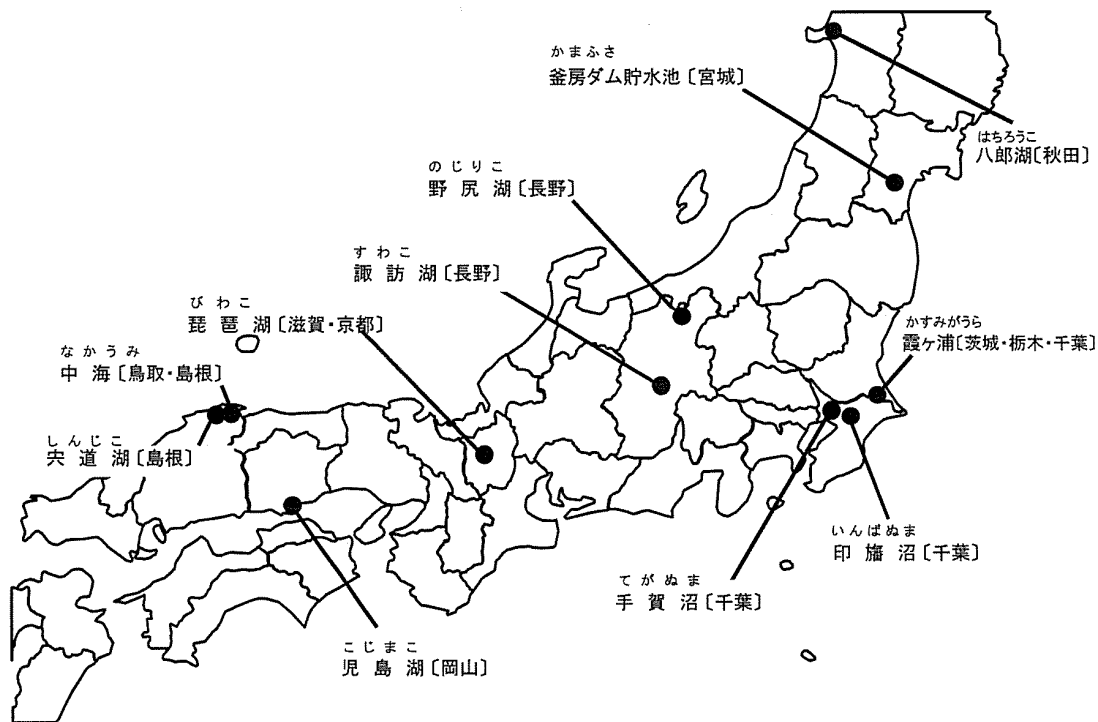
- ③水質環境基準生活環境項目(新規項目設定等)検討調査業務

#### 【環境技術開発等推進費】

(環境技術実証事業)

- ④環境技術実証事業(湖沼等水質浄化技術分野)

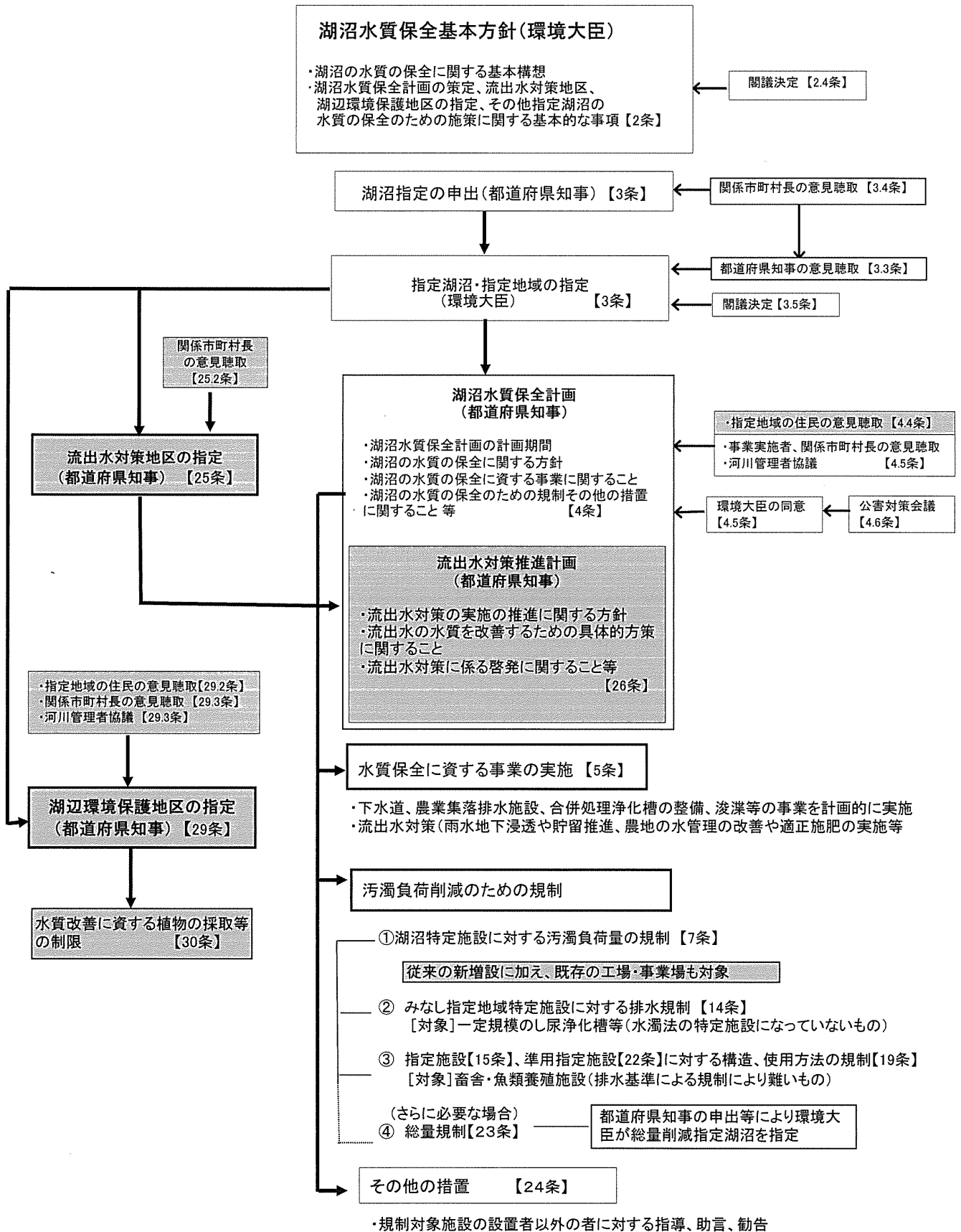
### 湖沼水質保全特別措置法に基づく11指定湖沼位置図



### 湖沼水質保全計画策定状況一覧 (平成23年度現在)

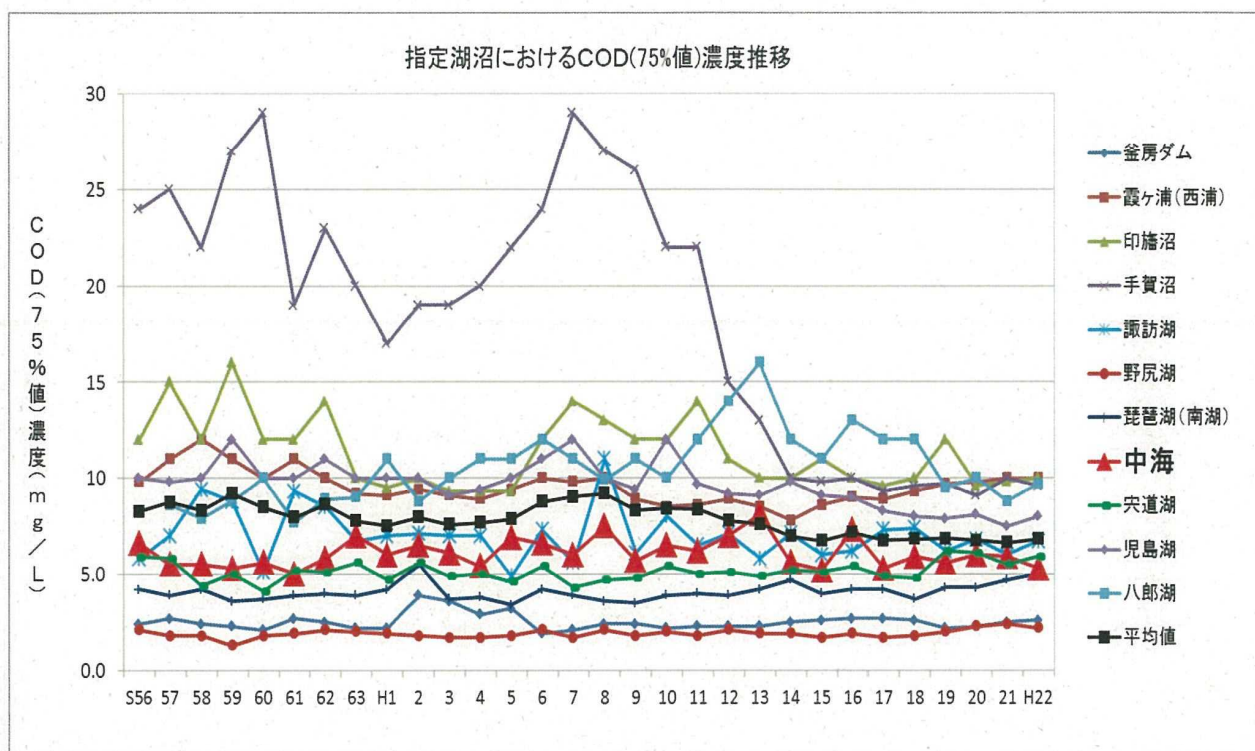
湖沼名	計 画 時 期 (年度)																																
	昭 和			平 成																													
	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27			
霞ヶ浦 印旛沼 手賀沼 琵琶湖 児島湖	← 第1期 →			← 第2期 →				← 第3期 →				← 第4期 →				← 第5期 →				← 第6期 →													
釜房ダム貯水池 諏訪湖	← 第1期 →			← 第2期 →				← 第3期 →				← 第4期 →				← 第5期 →																	
中 海 宍 道 湖		← 第1期 →			← 第2期 →				← 第3期 →				← 第4期 →				← 第5期 →																
野 尻 湖							← 第1期 →			← 第2期 →				← 第3期 →				← 第4期 →															
八 郎 湖																						← 第1期 →											

# 湖沼水質保全特別措置法の体系

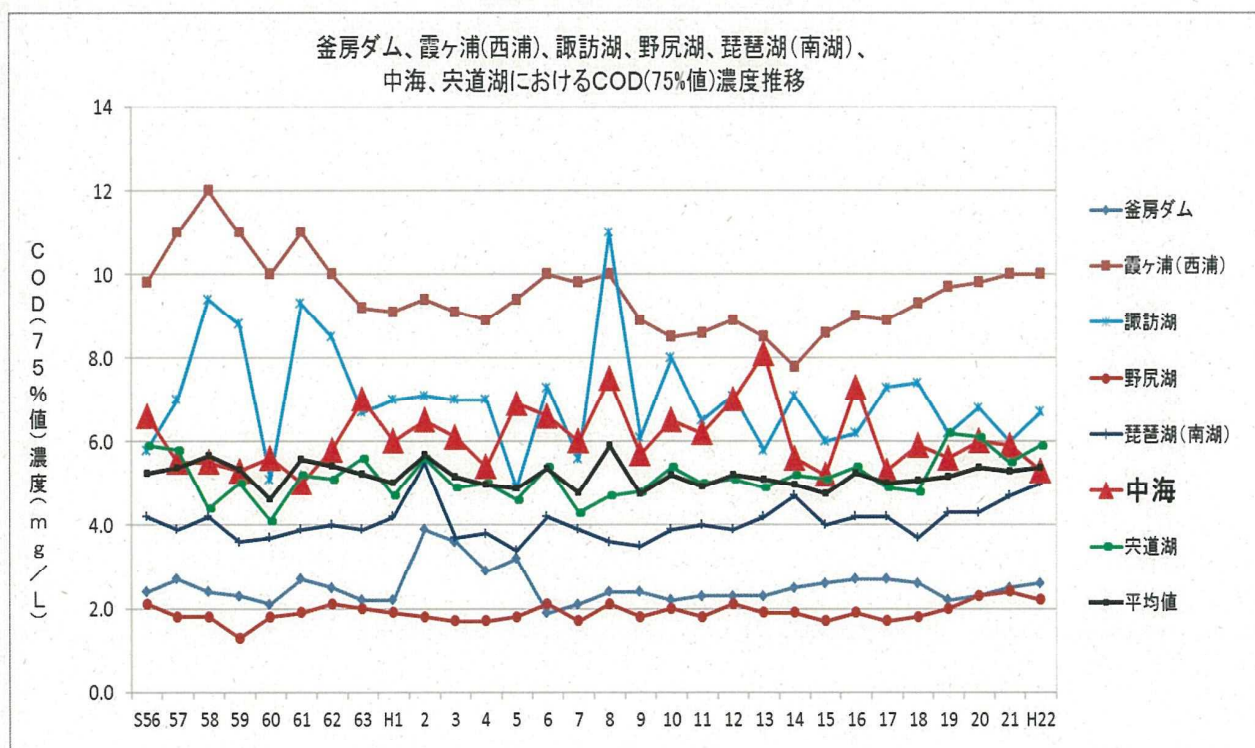




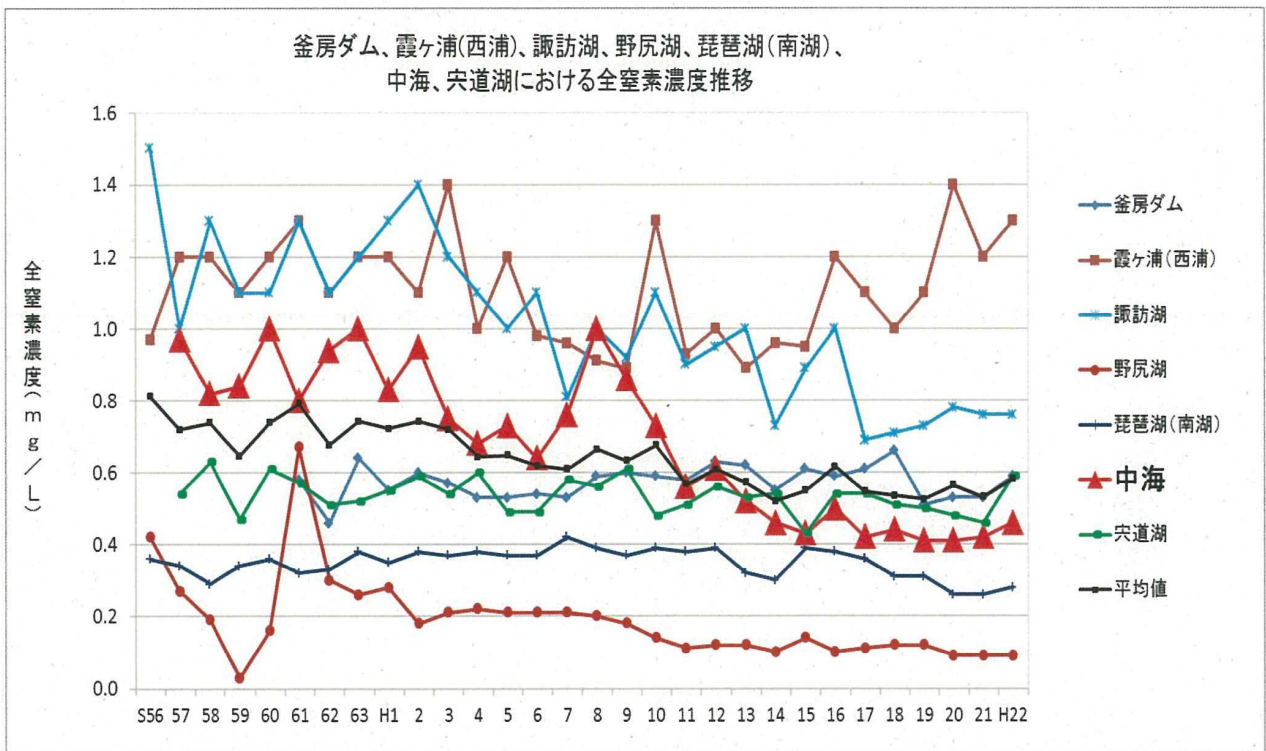
## 指定湖沼におけるCOD(75%値)濃度推移



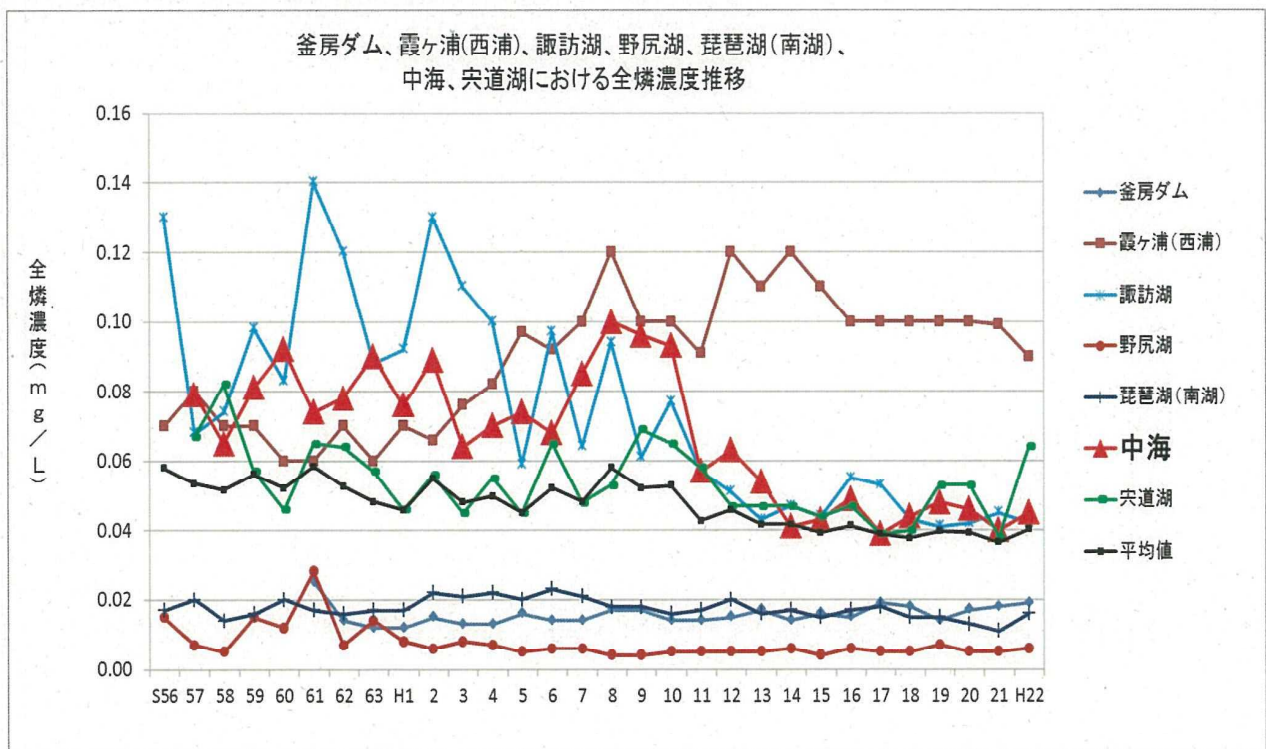
## 釜房ダム、霞ヶ浦(西浦)、諏訪湖、野尻湖、琵琶湖(南湖)、中海、宍道湖におけるCOD(75%値)濃度推移



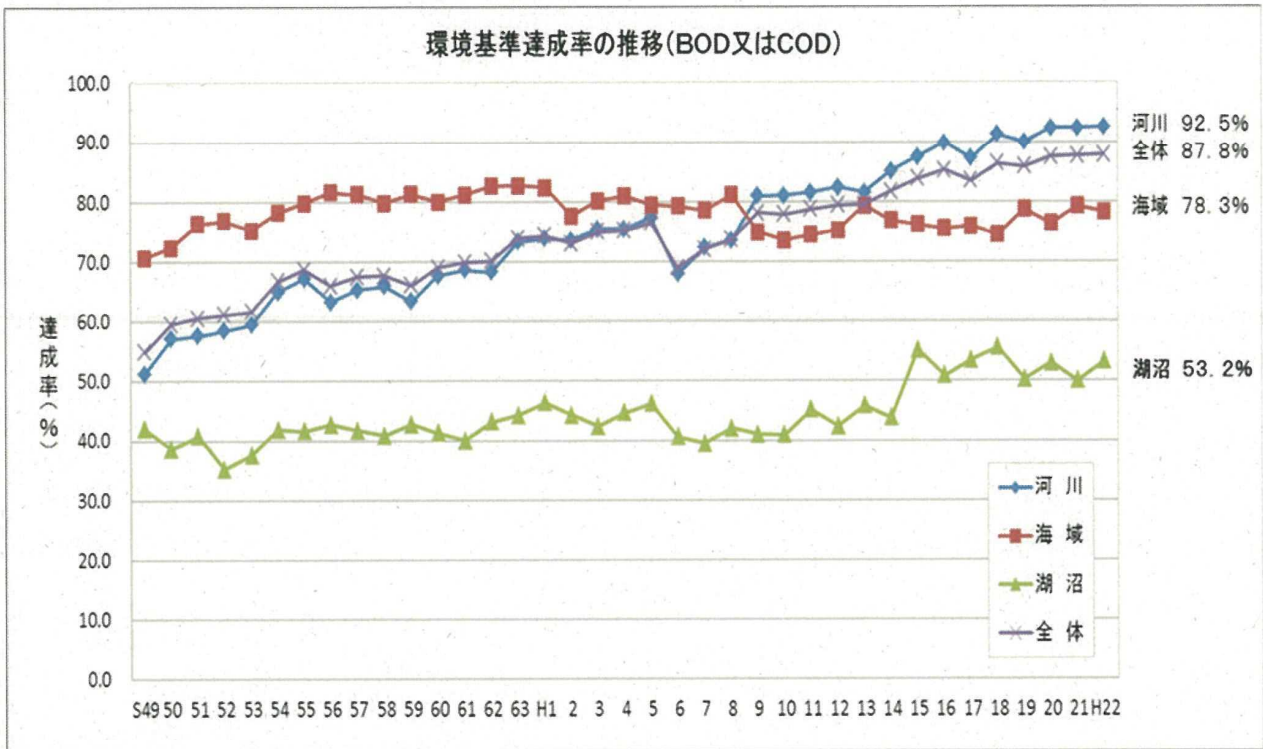
釜房ダム、霞ヶ浦(西湖)、諏訪湖、野尻湖、琵琶湖(南湖)、  
 中海、宍道湖における全窒素濃度推移



釜房ダム、霞ヶ浦(西湖)、諏訪湖、野尻湖、琵琶湖(南湖)、  
 中海、宍道湖における全磷濃度推移



環境基準達成率の推移(BOD又はCOD)



## ②湖沼自然浄化健全化事業

湖沼自然浄化活用事業一覧

No.	地方公共団体名	事業名	湖沼名	事業実施期間(予定)		
				平成23年度	平成24年度	平成25年度
1	北海道 亀田郡七飯町 (ナナエチヨウ)	大沼湖沼自然浄化活用事業	大沼			
2	秋田県	八郎湖植生浄化実証試験事業	八郎湖			
3	鳥取県	中海における「海藻刈りによる栄養塩循環システムのモデル構築」事業	中海			
4	島根県	宍道湖における覆砂による栄養塩溶出抑制と貝の水質浄化機能活用	宍道湖			
5	平成24年度新規採択事業については現在選定中					

#### ④環境技術実証事業(湖沼等水質浄化技術分野)・実証技術一覧

実施年度	実証番号	実証機関	実証技術	申請者
平成 22 年度	080-1001	社団法人 埼玉県環境検査研究協会	花卉等陸生植物を用いた鑑賞式 「グリーン生物浮島」	グリーン水研株式会社
平成 20 年度	080-0802	石川県	あま〜る式電気分解処理装置	シグマサイエンス株式会社
	080-0801		炭素繊維を用いた水質浄化技術	帝人株式会社、群馬工業高等専門学校
平成 19 年度	080-0703	大阪府	アオコ制御方法・アオコ制御のための施工	有限会社アクアラボ
	080-0702	石川県	浄化藻床桶による自然浄化工法	有限会社パイプ美人
	080-0701		噴流式水質浄化システム	株式会社サリック
平成 18 年度	080-0608	石川県	多機能セラミックス浄化システム	スプリング・フィールド有限公司
	080-0607		多機能ガラス発砲体 NEXTONE- $\alpha$ による水質浄化システム	株式会社石川再資源化研究所
	080-0606	愛媛県	直接曝気方式ジェット・ストリーマー	株式会社石井工作研究所
	080-0604	大阪府	微細オゾン気泡による水質浄化技術	野村電子工業株式会社
	080-0602	埼玉県	カーボンリバースシステム	株式会社フォーユー商会
	080-0601		浄化ブロック	株式会社ホクエツ関東、株式会社ホクエツ
平成 17 年度 ～18 年度	080-0605	香川県	エカローシステム	積水アクアシステム株式会社
	080-0603	埼玉県	複合型植生浮島浄化法(フェスタ工法)	株式会社フジタ
平成 17 年度	080-0504	広島県	水質浄化装置「みずきよ」	株式会社共立
	080-0503	大阪府	微細気泡による水質浄化技術	株式会社マイクロアクア
	080-0502	埼玉県	水質浄化システム(TAWS)	東洋建設株式会社
	080-0501		ピーキャッチ(りん吸着剤)による水質浄化システム	株式会社クレアテラ、りんかい日産建設株式会社

※平成23年度は採択事業なし

<ホームページ>

環境省 環境技術実証事業(ETV)

<http://www.env.go.jp/policy/etv/index.html>

本事業に関する詳細な情報についてご覧いただけます。